

東映株式会社

2024年3月期 第2四半期説明資料 (2023/4～2023/9)

▲ 公式LINE【東映IR News】



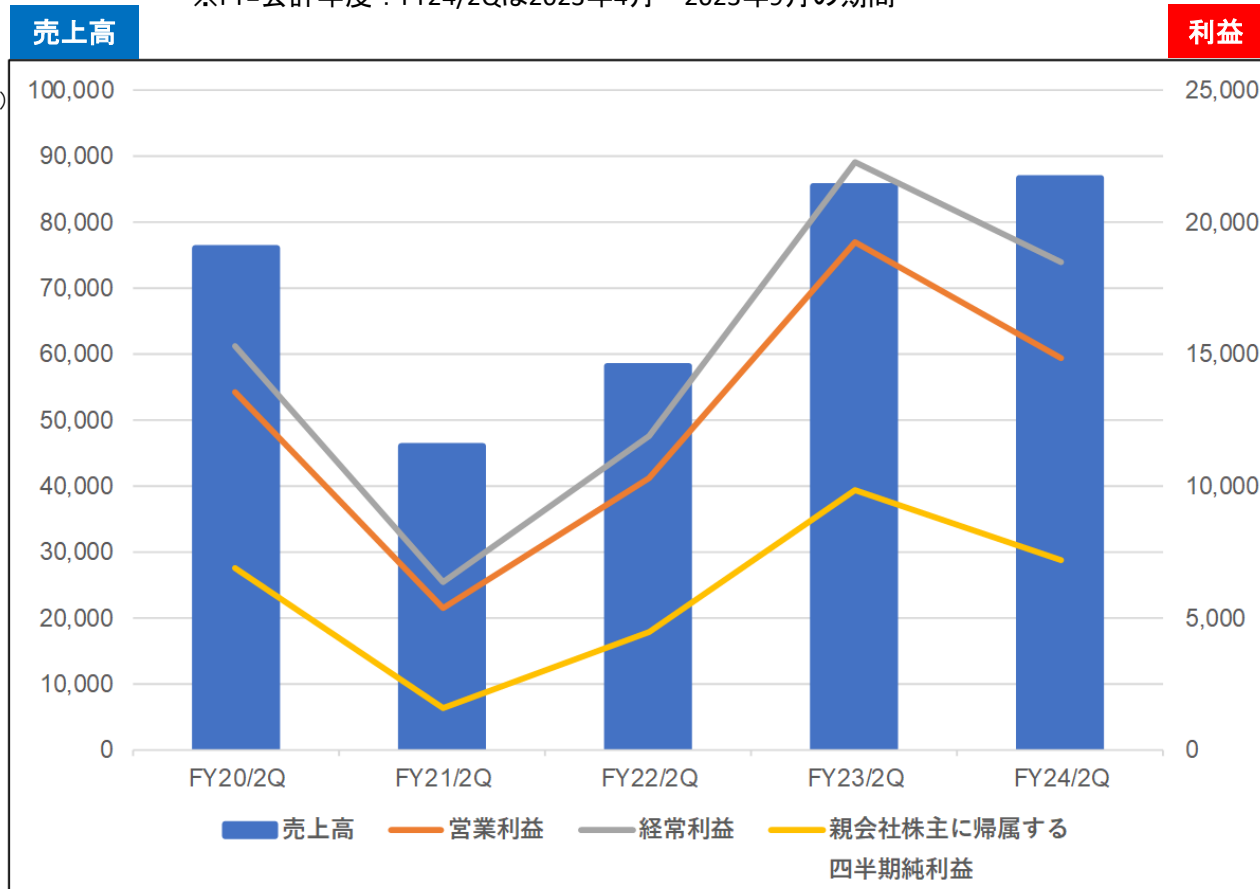
▲ 公式X【東映公式ニュース】



2024年3月期第2四半期決算（連結）

(百万円)	FY20/2Q	FY21/2Q	FY22/2Q	FY23/2Q	FY24/2Q	前期比較	
売上高	76,044	45,883	58,084	85,422	86,618	1,196	(1.4%)
売上原価	47,831	27,775	33,526	49,852	53,299	3,447	(6.9%)
販管費	14,643	12,757	14,303	16,339	18,477	2,138	(13.1%)
営業利益	13,570	5,350	10,254	19,230	14,840	▲ 4,390	(▲22.8%)
経常利益	15,270	6,338	11,893	22,243	18,494	▲ 3,749	(▲16.9%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	6,904	1,594	4,480	9,791	7,142	▲ 2,649	(▲27.1%)

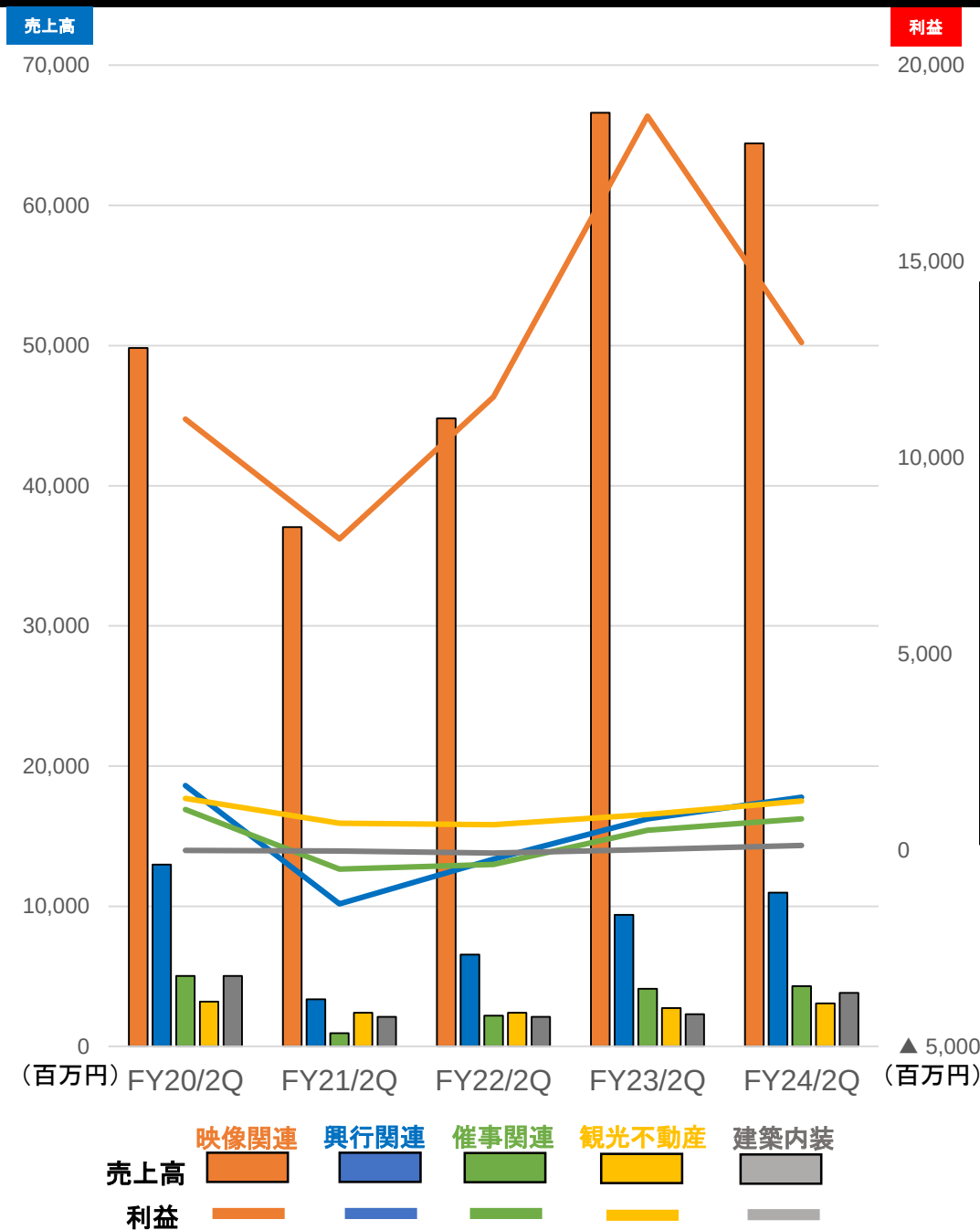
※FY=会計年度：FY24/2Qは2023年4月～2023年9月の期間



2024年3月期第2四半期の「売上高」は好調だった前年同期を1.4%上回りました。

第1四半期に『聖闘士星矢 The Beginning』の棚卸資産評価損を計上したこと等の影響を受け、「営業利益」「経常利益」「親会社株主に帰属する四半期純利益」は減少しました。

2024年3月期第2四半期 セグメント別分析 (連結) 【全体】



(百万円)

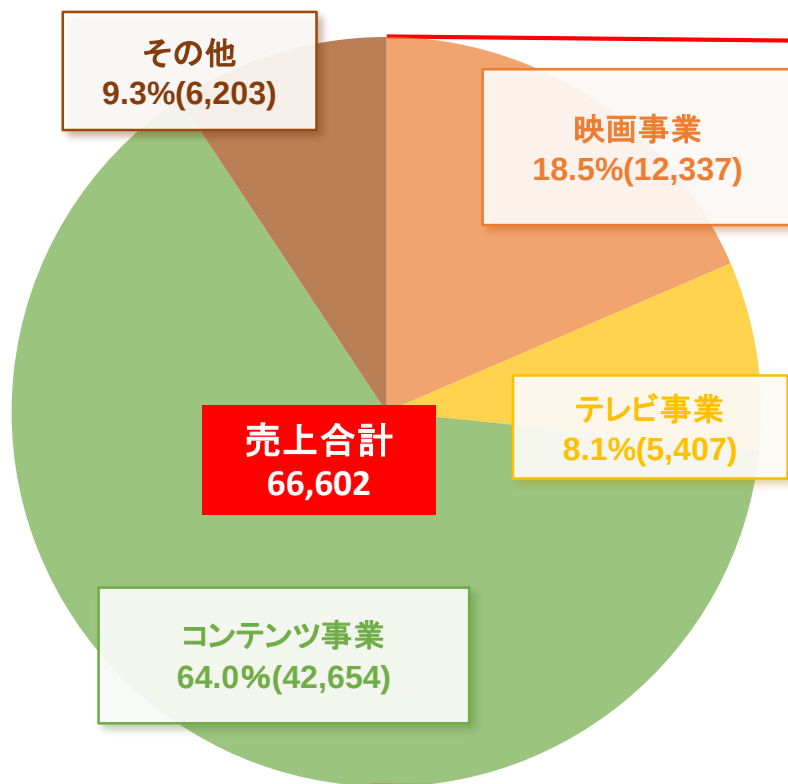
		FY23/2Q	FY24/2Q	前期比較	
映像関連事業	売上高	66,602	64,431	▲ 2,171	(▲ 3.3%)
	利益	18,703	12,935	▲ 5,768	(▲ 30.8%)
興行関連事業	売上高	9,679	10,980	1,301	(13.4%)
	利益	801	1,347	546	(68.0%)
催事関連事業	売上高	4,109	4,312	203	(4.9%)
	利益	507	802	295	(58.2%)
観光不動産事業	売上高	2,736	3,075	339	(12.4%)
	利益	911	1,250	339	(37.1%)
建築内装事業	売上高	2,294	3,818	1,524	(66.4%)
	利益	21	125	104	(479.3%)
売上高合計		85,422	86,618	1,196	(1.4%)
利益調整額		▲ 1,715	▲ 1,619	96	
利益合計		19,230	14,840	▲ 4,390	(▲ 22.8%)

▲ 5,000 (百万円)

(百万円)		FY23/2Q	FY24/2Q	前期比較	
映像関連事業	売上高	66,602	64,431	▲ 2,171	(▲ 3.3%)
	利益	18,703	12,935	▲ 5,768	(▲ 30.8%)

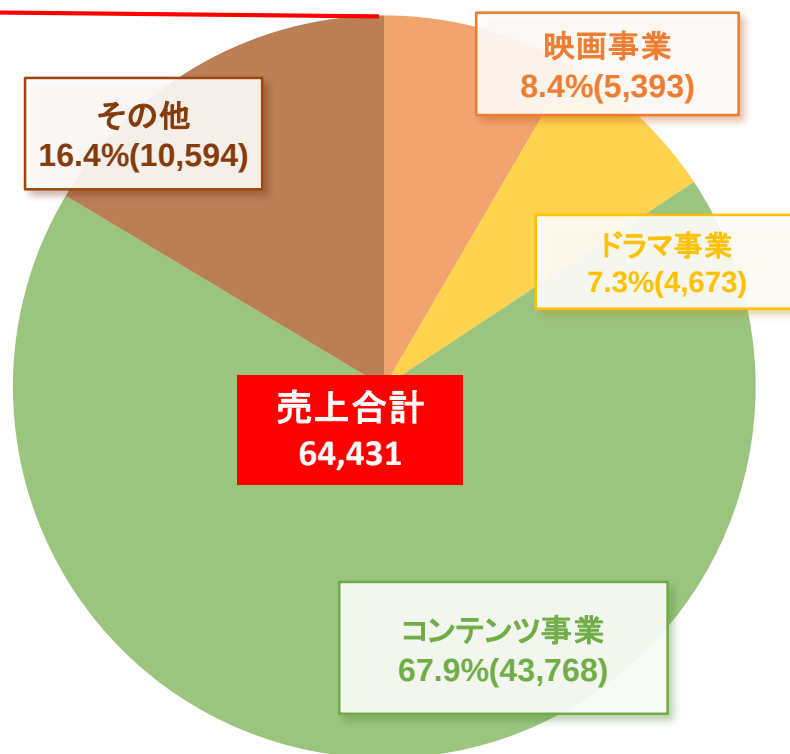
映画事業は大ヒットした『ONE PIECE FILM RED』を公開した前年同期の反動減となっていますが、IPのマルチユースによりコンテンツ事業は売上高増となりました。また、FY2024/1Qに『聖闘士星矢 The Beginning』の棚卸資産評価損を売上原価に計上しております。

FY23/2Q



FY24/2Q

【内訳】 (百万円)



【映画】 ⇒ 売上高5,393百万円（前年同期より56.3%減）

2024年3月期第1四半期・第2四半期 公開作品

- 4月28日 『聖闘士星矢 The Beginning』
 5月20日 劇場版『アイドルリッシュセブンLIVE 4bit BEYOND THE PERIOD』
 6月9日 劇場版『美少女戦士セーラームーンCosmos』《前編》
 6月30日 劇場版『美少女戦士セーラームーンCosmos』《後編》
 6月16日 『忌怪島／きかいじま』
 7月28日 映画『仮面ライダーギーツ4人のエースと黒狐』
 映画『王様戦隊キングオージャー アドベンチャー・ヘブン』
 8月11日 『リボルバー・リリー』
 8月25日 『Gメン』
 9月8日 『禁じられた遊び』
 9月15日 『映画 プリキュアオールスターズF』 興行収入14.1億円（11月5日時点）
 9月29日 『BAD LANDS バッド・ランズ』

「劇場版アイドルリッシュセブンLIVE 4bit BEYOND THE PERIOD」が興行収入28.7億円と大ヒットし、前連結会計年度における公開作品のうち、12月3日公開の映画「THE FIRST SLAM DUNK」が引き続き好稼働しました。
 また20周年記念作品となる「映画プリキュアオールスターズF」は、興行収入14億円を超えるヒットとなりました。

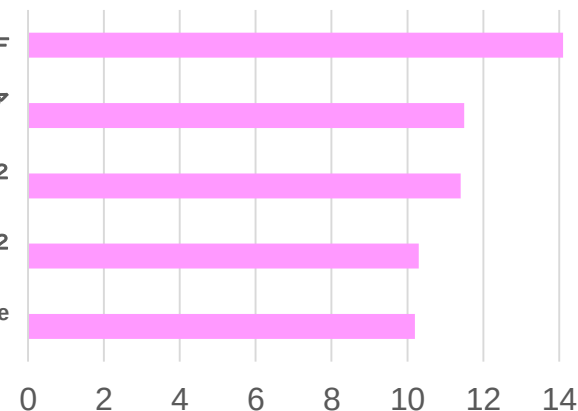


<TOPICS IPのエバーグリーン化について>

20周年記念作品となる「映画 プリキュアオールスターズF」は、興行収入14億円を超えるシリーズ歴代1位のヒットとなりました。
 このヒットは従来ターゲットにしてきた3歳から6歳に加えて、新たに10代から20代のファンが支えています。
 YouTube、TikTokをはじめとするSNSマーケティングや、10代のトレンドに合わせたアイテム・興行施策を展開した結果、子供の頃にプリキュアを見ていた中高生から20代前半が映画プリキュアに戻ってきていると分析しています。
 今から5年後、25周年時（2028年）には親子2世代がプリキュアのファンとなることが見込まれ、更に10代から20代のファンがついてくることで支持層が厚くなります。
 20年製作を続けてきた作品だからこそ可能となる、IPのエバーグリーン化を進めたいと考えています。

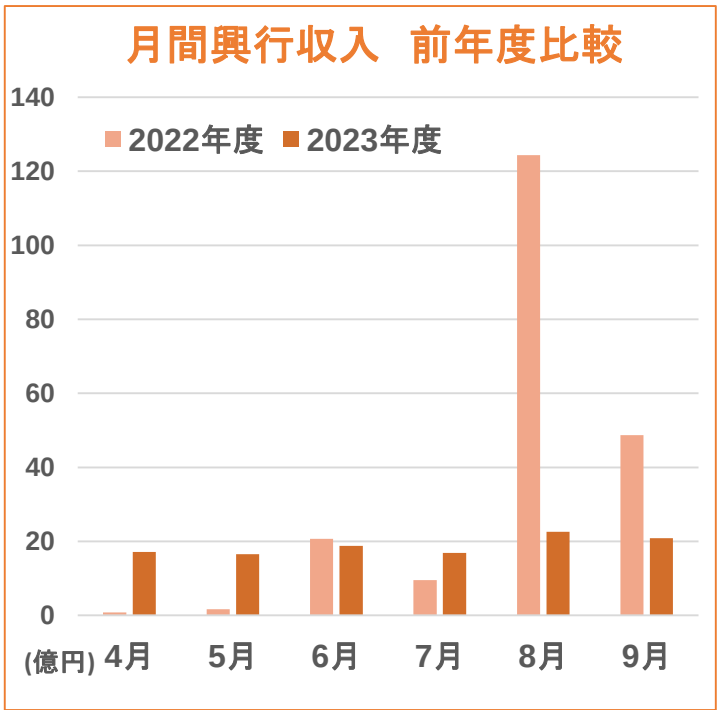
<プリキュアシリーズ歴代興行収入トップ5>

- 2025年は10代～20代が増加、さらに2世代ファンが固く支持すると予想
- (2023年)映画プリキュアオールスターズF
 (2018年)映画HUGっと！プリキュア♡ふたりはプリキュアオールスターズメモリーズ
 (2010年)映画 プリキュアオールスターズDX2 希望の光☆レインボージュエルを守れ！
 (2013年)映画 プリキュアオールスターズNewStage2 こころのともだち
 (2012年)映画 プリキュアオールスターズNewStage みらいのともだち (億円)



作品名	公開日	動員(万人)	興収(億円)
映画『THE FIRST SLAM DUNK』	2022年 12月3日	1088.4	157.4
『シン・仮面ライダー』	3月18日	158.8	23.3
『劇場版アイドリッシュセブン LIVE 4bit BEYOND THE PERIOD』	5月20日	164.9	28.7
映画『仮面ライダーギーツ4人のエースと黒狐』 映画『王様戦隊キングオージャー アドベンチャー・ヘブン』	7月28日	38.2	5.0
『リボルバー・リリー』	8月11日	49.4	6.5
『Gメン』	8月25日	52.5	7.2
『映画 プリキュアオールスターズF』	9月15日	115.0	14.1

※上映中作品に関しては下記記載時点での情報になります。
・『劇場版アイドリッシュセブン LIVE 4bit BEYOND THE PERIOD』：10月31日時点
・映画『仮面ライダーギーツ4人のエースと黒狐』映画『王様戦隊キングオージャー アドベンチャー・ヘブン』：10月31日時点
・『映画 プリキュアオールスターズF』：11月5日時点



	2022年度	2023年度	前年度比	2023年度主な稼働作品
4月	0.84	17.15	2030.5%	映画『THE FIRST SLAM DUNK』 『シン・仮面ライダー』『聖闘士星矢 The Beginning』
5月	1.69	16.53	979.6%	映画『THE FIRST SLAM DUNK』『劇場版アイドリッシュセブン LIVE 4bit BEYOND THE PERIOD』 『シン・仮面ライダー』『おとななじみ』
6月	20.68	18.84	91.1%	『劇場版アイドリッシュセブン LIVE 5bit BEYOND THE PERIOD』 映画『THE FIRST SLAM DUNK』 『劇場版 美少女戦士セーラームーンCosmos』前編・後編』
7月	9.57	16.90	176.6%	『劇場版アイドリッシュセブン LIVE 6bit BEYOND THE PERIOD』 映画『THE FIRST SLAM DUNK』 『映画 仮面ライダーギーツ4人のエースと黒狐』映画 王様戦隊キングオージャー アドベンチャー・ヘブン』
8月	124.37	22.58	18.2%	映画『THE FIRST SLAM DUNK』『リボルバー・リリー』 『劇場版アイドリッシュセブン LIVE 6bit BEYOND THE PERIOD』『Gメン』
9月	48.73	20.87	42.8%	『映画プリキュアオールスターズF』『Gメン』 『禁じれた遊び』『劇場版アイドリッシュセブン LIVE 7bit BEYOND THE PERIOD』
合計	205.88	112.86	54.8%	

(億円)

【ドラマ】 ⇒ 売上高4,673百万円（前年同期より13.6%減）

FY2024年第1四半期・第2四半期 放送作品

3月5日～	『王様戦隊キングオージャー』（テレビ朝日系）
3月24日～5月26日	『ながたとんと青と』（WOWOW）
4月5日～5月31日	『特捜9 Season6』（テレビ朝日系）
6月7日～8月9日	『刑事7人 Season9』（テレビ朝日系）
8月16日～10月4日	『科捜研の女 season23』（テレビ朝日系）
9月3日～	『仮面ライダーガッチャード』（テレビ朝日系）
9月21日	『遺留捜査スペシャル』（テレビ朝日系）

『特捜9』『科捜研の女』『王様戦隊キングオージャー』等を制作し、作品内容の充実と受注本数の確保に努めました。またキャラクターの商品化権営業は、玩具等に関する消費者の嗜好が多様化するなか、着実な営業に努めました。



〈TOPICS ドラマ事業部門としての再編〉

・従来のテレビ事業部門は、昨今のメディアの多様化の流れを鑑み、2023年10月1日付で**ドラマ事業部門**と組織を変更いたしました。

今後はテレビ放送作品だけでなく、配信作品の制作もドラマ事業部が取り組みます。

・特撮作品『王様戦隊キングオージャー』で得た知見に基づき、バーチャルプロダクション撮影のノウハウを活かしたIP開発など、企画の幅を広げていきます。

・人材育成においては、これまでも脚本家を採用し3年間で3名のペースで育成を進めてきましたが、今後はドラマシリーズに限らず映画など含めマルチに通用する人材を育てていきます。

ドラマ事業部門

テレビ作品

VPなど先端映像
多様な企画

配信作品

脚本家育成

劇場作品

【コンテンツ】 ⇒ 売上高43,768百万円 (前年同期より2.6%増)

●配信

・『レジェンド&バタフライ』『シン・仮面ライダー』の売上高が好調に推移しました。



●番組販売

大型作品のディールはありませんでしたが、旧作の鶴田浩二主演作4 Kリマスター版をCS局を中心にセールスし、好調でした。

●パッケージ (DVD & Blu-ray)

・厳しいマーケット状況下においても大ヒット作『ONE PIECE FILM RED』の販売、また主要作品のレンタルが堅調でした。しかし、縮小傾向の続くパッケージマーケットの中では全体的に劇場公開作品等の取り扱いタイトルが昨年に比べ減っており、売上高は減少傾向となりました。

・映画『THE FIRST SLAM DUNK』のパッケージは、2024年2月28日にリリースを予定しております。

●海外

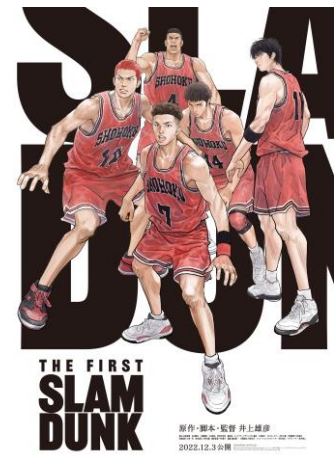
・『レジェンド&バタフライ』の海外配信権販売が好調でした。また『忌怪島／きかいじま』のアジア各国での販売も好調でした。
・アジアでの「スーパー戦隊シリーズ」の玩具ロイヤリティ収入は韓国での販促展開などにより、売上高は大幅に増加しました。

●教育映像

『ハラスメントの裏に潜む無意識の偏見』『ドライバーは交通強者!』など8タイトルをリリースしました。
教育映像のマーケットは、ギガスクール化による学校教材の利用減や、研修動画の視聴スタイルの変化などにより縮小の傾向にありますが、教育映像部では、高い映像製作能力を武器に新たな需要を開拓する為、11月に企業研修に特化したサービスを開始する予定です。

●アニメーション

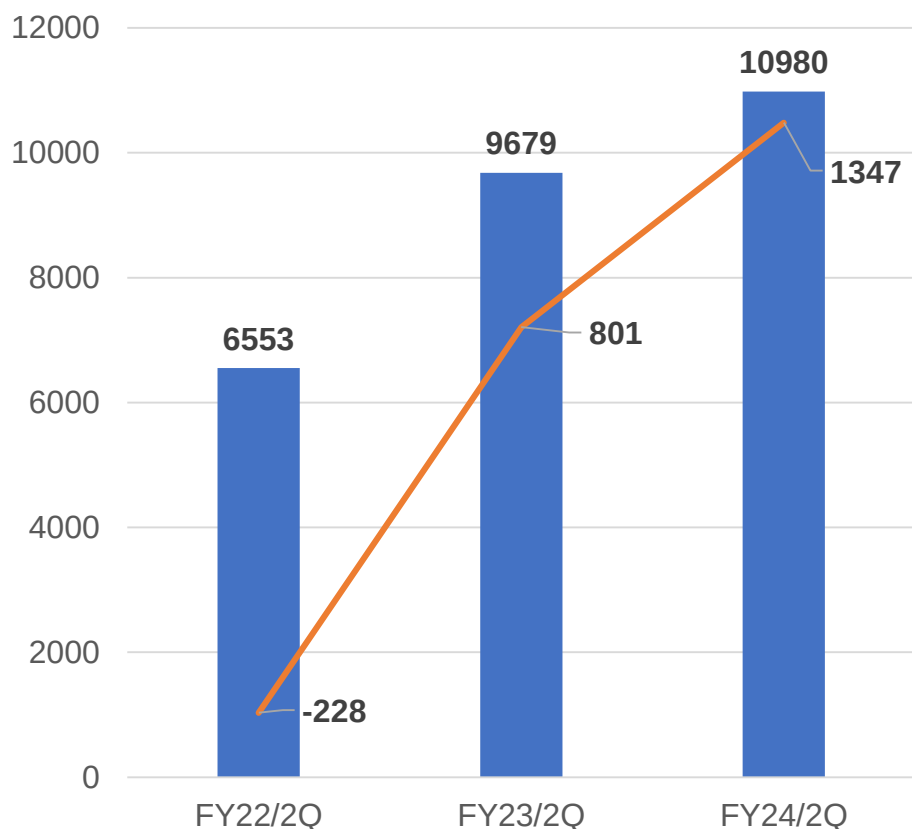
前年同期に公開した『ドラゴンボール超 スーパーヒーロー』『ONE PIECE FILM RED』映画『THE FIRST SLAM DUNK』の大ヒットによる波及効果が継続し、商品販売事業に加え、国内外における配信権販売や海外における上映権販売が業績を牽引しました。



(百万円)		FY23/2Q	FY24/2Q	前期比較	
興行関連事業	売上高	9,679	10,980	1,301	(13.4%)
	利益	801	1,347	546	(68.0%)

【興行】 ⇒売上高10,980百万円（前年同期より13.4%増）

売上高



利益

- ・（株）ティ・ジョイが運営する218スクリーンおよび東映（株）の直営館丸の内TOEI 2スクリーン含む合計220スクリーンで展開しています。
- ・売上高は前年同期と比べ13.4%増、利益が68.0%増となりました。
- ・『劇場版アイドルリッシュセブンLIVE 4bit BEYOND THE PERiOD』（興行収入28.7億円）の大ヒット、『映画プリキュアオールスターズF』（興行収入14.1億円）のヒット、および昨年12月3日に公開した映画『THE FIRST SLAM DUNK』が引き続き好調に稼働し、さらに他社配給となる『名探偵コナン 黒鉄の魚影』『ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー』が大ヒットしました。併せて、飲食や物販も好調に推移しました。

(百万円)		FY23/2Q	FY24/2Q	前期比較	
催事関連事業	売上高	4,109	4,312	203	(4.9%)
	利益	507	802	295	(58.2%)

【催事】

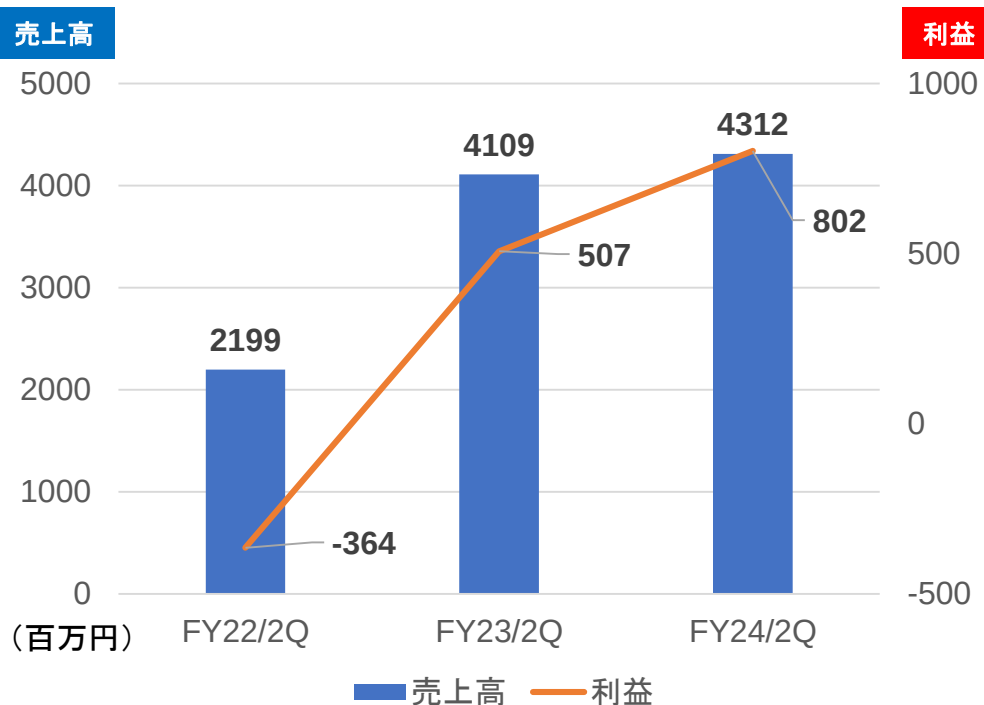
⇒売上高3,433百万円（前年同期より4.6%増）

・商品販売の伸びが全体を押し上げ、「仮面ライダーストア」のポップアップストアやオンラインストアが好調でした。

・『暴太郎戦隊ドンブラザーズ ファイナルライブツアー』『仮面ライダーギーツファイナルステージ』はコロナ禍後動員が戻り、イベント会場での物販が好調でした。

・キャラクターショーの売上高はコロナ禍前に比べ60 %程度であり、回復途上といえます。

・今後はキャラクターショーを回復させるとともに、他社IPのイベントにも積極的に取り組んで催事事業を強化していきます。



【東映太秦映画村】

⇒売上高878百万円（前年同期より6.3%増）

・映画村は団体予約がコロナ禍前に戻ってきており、前期比集客数10%増となりました。商品や飲食、アトラクション利用の増により客単価がアップしています。

・例年冬季は閑散期となっていますが、通年で集客が見込める施策を打ち出し、売上高の増加を図っていきます。

(百万円)		FY23/2Q	FY24/2Q	前期比較	
観光不動産事業	売上高	2,736	3,075	339	(12.4%)
	利益	911	1,250	339	(37.1%)

【不動産賃貸】⇒売上高2,176百万円（前年同期より3.4%増）

・渋谷東映プラザでは、昨年12月に当社直営劇場「渋谷TOEI」閉館後、同施設を東急株式会社に「Bunkamura ル・シネマ渋谷宮下」として賃貸したことにより、不動産賃貸収益が増加しました。

・株式会社ティ・ジョイに賃貸している「T・ジョイ梅田」「新宿バルト9」「T・ジョイ SEIBU 大泉」が順調に稼働しました。

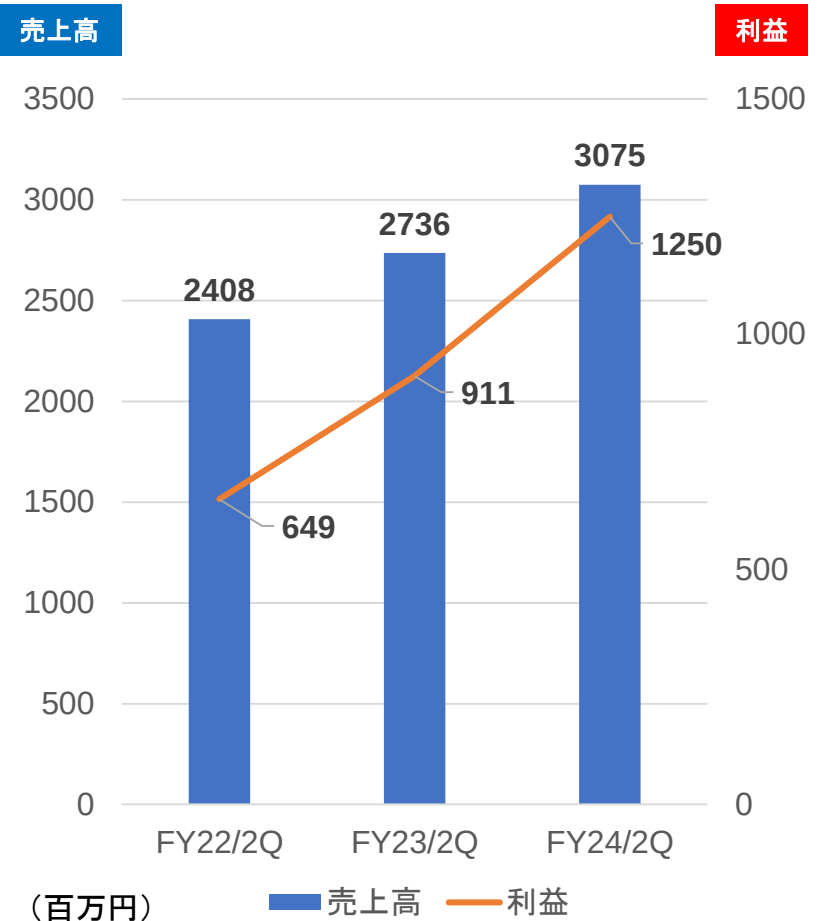
・レジデンス賃貸物件が全般的に高稼働しています。

【ホテル】⇒売上高898百万円（前年同期より42.5%増）

・新潟東映ホテルはコロナ禍では敬遠されていた宴会が戻り、また湯沢東映ホテルは団体ツアーの客足が戻りました。

・宿泊需要が高まるのを受けて、宿泊料を値上げし、また宿泊客が増えることで朝食販売が増加しました。その結果客単価が上がり、売上高の増加に繋がりました。

・コロナ禍で強化したオリジナル商品販売（カレー、ドレッシング、おせちなど）については百貨店やスーパー、コンビニなどとのコラボレーション等により販路を拡大しています。

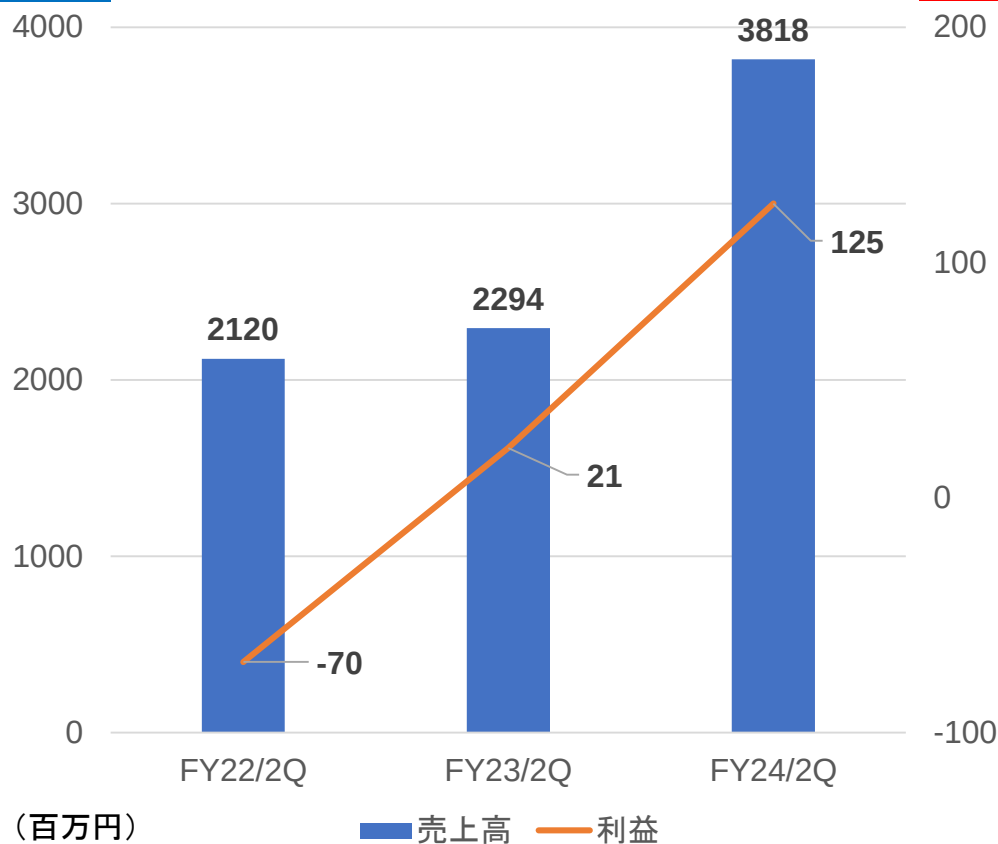


(百万円)		FY23/2Q	FY24/2Q	前期比較	
建築内装事業	売上高	2,294	3,818	1,524	(66.4%)
	利益	21	125	104	(479.3%)

【建築内装】 ⇒ 売上高3,818百万円（前年同期より66.4%増）

売上高

利益



・ コロナ禍後、建築内装業は全般的に上向き傾向にあり、映像施設、老健施設、マンション、その他の受注が好調でした。

・ 一方、資材費や管理費が予想以上に高騰し利益を圧迫しました。特にマンション建設では鉄骨、セメント等の資材高騰が響きました。

・ 下期も映像施設、老健施設、マンション、その他の工事受注は順調と見込んでいますが、資材費、管理費の高騰による利益の縮小も予想されます。

參考資料

東映グループのビジネスモデル

① 自ら企画製作し、

多様で魅力的な作品群を企画

- ・ 劇場映画 4,400作品以上
- ・ テレビ映画 38,000話以上
- ・ 配信映画 600話以上

オリジナル

原作もの



映像製作インフラ

- ・ 撮影からポストプロダクションまでのワンストップ体制

撮影



東京撮影所



京都撮影所

ポストプロ



東映デジタルセンター



東映ラボ・テック

アニメ



大泉スタジオ

② マルチユース展開

- ・ 劇場からテレビ、ネット配信までマルチチャネルをカバー

配給

興行

テレビ放送

配信

DVD Blu-ray

商品化

書籍化

ゲーム化

イベント化

舞台化

海外展開



ティ・ジョイ



東映
オンラインストア



東映特撮
YouTubeOfficial

③ 作品をフランチャイズ化することで接点を増加 IPが生み出す収益の最大化を目指す

収益 最大化

IP認知度向上
ファン化等

利益の積重ね



マルチ
ユース



利益の積重ね



マルチ
ユース



IP

接点増加

『王様戦隊キングオージャー』を 人気オンラインゲーム「フォートナイト」で体験！



■利用料金
無料

■利用方法
PlayStation、Xbox、
Nintendo Switch、
PC、Android の
フォートナイトで、
島コードを入力し
てください。

島コード
「王の間を取り戻せ！訓練編」 5011-1640-7775
「走れ！登れ！ンコソパのテッペンを目指せ」 3739-7751-6235
「ゴッカンサイバーン域に納品せよ！」 8799-8142-7690



当社が持つ最新映像技術で制作した『王様戦隊キングオージャー』（テレビ朝日系にて毎週日曜日朝9時30分より放送中）の世界感が楽しめる島（ゲーム）コンテンツを、Epic Gamesのバトル・ロワイヤルゲーム「FORTNITE（以下「フォートナイト」）」の「クリエイティブモード」を使用し、公開いたしました。5つの国を舞台に順次公開していきます。

第1弾は9月10日（きゅーでんの日）にドラマに登場する国シュゴッダムの“王の間”を舞台にしたゲーム「王の間を取り戻せ！訓練編」を公開！第2段「走れ！登れ！ンコソパのテッペンを目指せ」（ンコソパ）、第三弾「ゴッカンサイバーン域に納品せよ！」（ゴッカン）も公開しています。

■『王様戦隊キングオージャー』は最新の特撮技術「バーチャルプロダクション」を使用して制作しています。本ゲームでは、バーチャルプロダクションに映すために作成したCG映像の世界へメタバース空間として誰でも自由に入り遊ぶ事が出来ます。

撮影で使用する**セットは通常撮影の終了と共に廃棄**されますが、**本作はCGで制作したことでゲームとして2次利用が可能**となりました。

■本ゲームは当社**新規事業開発部**と**キャラクター戦略部**が新しいメディアでのIPマルチユース展開の一環として取り組みを進めているものです。また制作担当は当社の映像技術開発部門、**ツークン研究所**が担当しました。

名優・市川右太衛門が袖を通した絢爛豪華な衣裳や貴重な映画資料の数々・・・ 企画展「甲斐荘楠音の全貌 絵画、演劇、映画を越境する個性」

大正から昭和初期に日本画家として活躍した異才・甲斐荘楠音（かいのしょう ただおと/1894～1978）の回顧展で、甲斐荘がデザインした当社映画衣裳を展示協力いたしました。

大正から昭和初期に日本画家として活躍した異才・甲斐荘楠音（かいのしょう ただおと/1894～1978）。京都の画壇を離れ、1930年代終盤に衣裳・風俗考証家として映画界へ転身した甲斐荘は、東映時代劇映画黄金期に大スター市川右太衛門が出演した映画を中心に数々の衣裳デザインを手がけました。その数はなんと150領以上！

画家ならではのセンスで華やかな衣裳のデザインを手がけ、1953年ベネチア映画祭で銀獅子賞を獲得した大映『雨月物語』（溝口健二監督）の風俗考証を担当し、アカデミー賞では衣裳部門にノミネート。一躍脚光を浴びました。

展覧会では絵画に加えて、東映京都撮影所が保存してきた豪華絢爛な『旗本退屈男』シリーズの衣裳、また大友柳太朗の『鳳城の花嫁』（1957年）、『丹下左膳』（1958年）、大川橋蔵『新吾十番勝負』（1959年）、そして市川右太衛門の息子である北大路欣也『徳川家康』（1965年）など、東映時代劇作品の貴重な衣裳を京都会場計37領、東京会場計27領を展示しました。



『旗本退屈男 謎の幽霊島』衣裳
公開：1960年 監督：佐々木康
衣裳着用者：市川右太衛門



『旗本退屈男 謎の南蛮太鼓』衣裳
公開：1959年 監督：佐々木康
衣裳着用者：市川右太衛門

©東映

時代劇という文化を様々な形で未来へ。
多様で豊かな日本文化の形成を
私たちは担っていきます。

●京都会場

会期：2023年2月11日（土・祝）～4月9日（日）

会場：京都国立近代美術館

主催：京都国立近代美術館、日本経済新聞社、京都新聞

●東京会場

会期：2023年7月1日（土）～8月27日（日）

会場：東京ステーションギャラリー

主催：東京ステーションギャラリー、日本経済新聞社

※特別協力：東映、東映太秦映画村（京都・東京会場ともに）

釜山国際映画祭が 『キリエのうた』『リボルバー・リリー』を招待

今年当社は、釜山国際映画祭から『キリエのうた』『リボルバー・リリー』2作品の招待を受けました。

『キリエのうた』は「アジアの窓」部門において招待を受け、岩井俊二監督、アイナ・ジ・エンド、松村北斗、広瀬すずが、10月4日の開幕式、また10月5日と6日に行われた舞台挨拶、野外イベント、記者会見などに参加しました。また『リボルバー・リリー』は「オープンシネマ」部門に招待を受け、行定勲監督と綾瀬はるかが10月11日に映画の殿堂で行われた舞台挨拶に登壇しました。



『キリエのうた』 左より、
岩井俊二監督、アイナ・ジ・エンド、松村北斗、広瀬すず



『リボルバー・リリー』 左より 綾瀬はるか、行定勲監督

当社は中長期ビジョンで掲げた2033年に向けてのスローガン
「To the World To the Futureー「ものがたり」で世界と未来を彩る会社へー」を実現すべく、
様々な部署が一丸となって最新の技術とメディアを駆使し、「ものがたり」を皆様のもとへ届けてまいります。

作品・催事 ラインナップ

※2023年11月以降公開・実施予定

【映画】

- 11月10日『法廷遊戯』
- 11月17日『鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎』
- 11月23日『翔んで埼玉 ～琵琶湖より愛をこめて～』
- 12月22日『仮面ライダー THE WINTER MOVIE ガッチャード&ギーツ』（仮）
- 2024年2月9日『身代わり忠臣蔵』
- 2024年3月20日『映画おしりたんてい さらば愛しき相棒（おしり）よ』
- 2024年5月24日『帰ってきたあぶない刑事』



【テレビ】

- 2023年3月5日～ 『王様戦隊キングオージャー』
- 2023年9月3日～ 『仮面ライダーガッチャード』
- 2023年10月18日～ 『相棒Season22』



作品・催事 ラインナップ

※2023年11月以降公開・実施予定

【配信】

- 2023年11月5日 『暴太郎戦隊ドンブラザーズVS暴太郎戦隊ドンブリーズ』
- 2024年1月28日 『仮面ライダー555殺人事件』
- 2024年以降 『仮面ライダーゲイザー』

【催事】

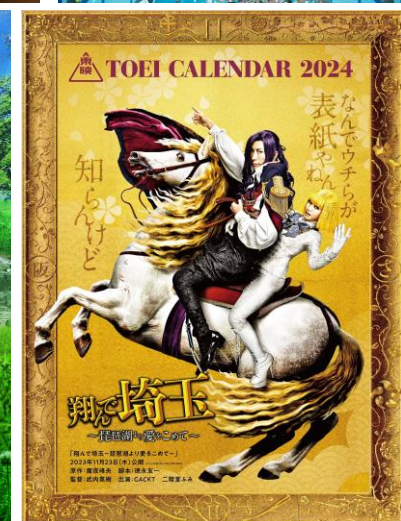
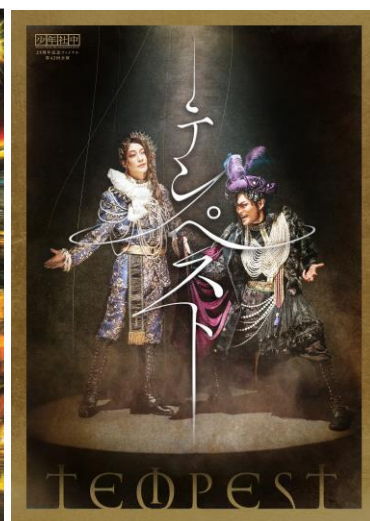
- ・『キース・ヘリング展 アートをストリートへ』 2023年12月～ 東京他巡回
- ・『北斗の拳 40周年大原画展 ～愛をとりもどせ!!～』 2023年10月～ 東京他巡回中
- ・『民藝 MINGEI 一美は暮らしのなかにある』 2023年7月～ 大阪他巡回中

【ショー・舞台】

- ・『仮面ライダースーパーライブ2024』 2023年12月～ 静岡他巡回
- ・『少年社中25周年記念ファイナル 第42回公演「テンペスト」』 2024年1月～ 東京・大阪
- ・『超英雄祭 KAMEN RIDER×SUPER SENTAI LIVE & SHOW 2024』 2024年2月 横浜
- ・『ひろがるスカイ！プリキュア 感謝祭』 2024年2月 東京

【商品】

- ・『東映カレンダー2024』



本資料について

本資料の内容には将来に対する見通しが含まれていますが、実際の業績は様々な状況変化や要因により、見通しと大きく異なる結果となりえることがあり、保証を与えるものではありませんのでご了承下さい。
また、本資料の無断転載はお断りいたします。

本資料に関するお問合せ

東映株式会社 経営戦略部広報室

TEL:03-3535-7564 MAIL: keisen_koho@toei.co.jp

担当: 多田(オオタ) 内藤 奥本 加藤